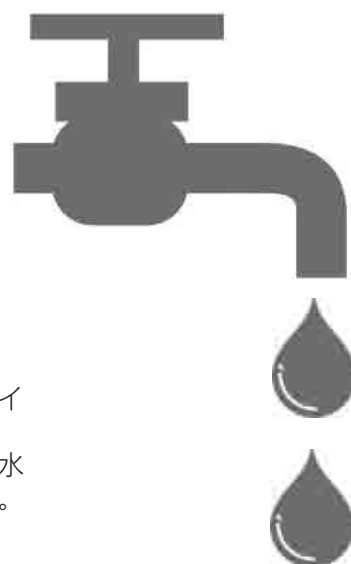


# 平成22年度 水道事業会計 の決算状況



私たちの日常生活において、水は欠かせないものであり、水道は生活を支えるライフラインの1つです。

市は、安全で良質な水道水を安定的に供給するため、市民の皆さんからいただく水道料金を主な財源として、水道施設の整備や維持管理などを毎年度実施しています。

今号では、平成22年度水道事業会計の決算状況をお知らせします。

## 水道事業会計の概要

水道事業は、地方公営企業法に基づき地方自治体が経営する企業として運営しています。

そして、企業の経営成績、財政状態を明らかにするため、会計制度は企業会計方式を採っているほか、事業に必要な経費は経営に伴う収入（水道料金収入）をもって充てるという独立採算制を原則に経営を行っています。

このため、事業の運営に当たっては、本来の目的である公共の福祉を増進するとともに、常に効率的な事業運営を図り、企業の経済性を発揮することが求められています。

現在はもちろん、将来も持続可能な水道とするためには、事業運営基盤の強化を図り、安全・安心な給水を確保する必要があります。

## 給水の状況

給水人口	51,149人
給水戸数	22,087戸
年間給水量	4,241,884m <sup>3</sup> (1日1人当たり平均227ℓ)
平均配水量 (1日当たり)	13,530m <sup>3</sup>

## 収入と支出の概要

収益的収支とは、水をつくり各家庭に届けるための収支を表したものです。

収入合計は、予算の9億2,088万円に比べ、決算は9億4,501万円で、2,413万円の増となりました。一方、支出合計は、予算の8億6,281万円に比べ、決算は8億1,566万円で、6,125万円の減となりました。

この結果、収支決算は、予算の5,807万円に対し1億4,345万円の黒字となりました。これは、原水及び浄水費など、事務事業の精査を図りながら経費の節減に努めたことによるものです。

この黒字額は、国などからの借入金の今後の元金償還に備えるため、減債積立金に4,345万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため、建設改良積立金に1億円を積み立てる予定です。

収益的収支

項目	金額
収益的収入	9億4,501万円
営業収益	9億4,394万円
(内給水収益)	8億9,732万円
営業外収益	99万円
特別利益	8万円
収益的支出	8億1,566万円
営業費用	6億8,139万円
営業外費用	1億1,323万円
特別損失	694万円
純利益	1億4,345万円

資本的収支とは、浄水施設や配水池、配水管の整備などに使用するための収支を表したものです。

収入合計は、予算の1億1,500万円に比べ、決算は1億1,450万円で50万円の減となりました。一方、支出合計は、予算の5億3,414万円に比べ、決算は4億9,903万円で3,511万円の減となりました。

この結果、収支決算は、予算の4億1,914万円に対し3億8,453万円の財源不足となりました。この不足額は、収益的支出のうち、現金の支出を必要としない費用の減価償却費など内部留保している損益勘定留保資金で補てんしました。

資本的収支

項目	金額
資本的収入	1億1,450万円
企業債	1億760万円
負担金	690万円
資本的支出	4億9,903万円
建設改良費	2億3,310万円
企業債償還金	2億6,593万円
不足額	3億8,453万円